

真・魅力通信



保幼こ小中一貫コーディネーター：奥村 崇志

第4回袋井あやぐも学園幼小中一貫教育研修会 その③ ～潤いのある学校づくりを目指して 分散会の様子～



前号に引き続き 11月1日(水) 第4回袋井あやぐも学園幼小中一貫教育研修会の様子を紹介します。「心づくり部」「生き方部」「特別支援部」の3つの部の分散会の様子についてです。

心づくり部

- 幼稚園では、自分の立場を振り返り、共感的な人間関係の構築に向けた第一歩を進めたい。
- 授業を参観して、個々が意見を伸び伸びと発言している。先生とのやりとりを楽しんでいる様子が伺えた。
- 学年が上がるとゼロに戻りがち。「聞く指導」「ボイスシャワー」についてさらに内容や姿を具体化していきたい。基本を大切に「しっかりしつけ、たっぷりほめ、じっくり考えさせる」を継続していきたい。
- 親子で取組活動が、年に2～3回くらいあってもよいと思う。



生き方部

＜働く喜び、住みよい町の取組＞

- 袋井中2年生は、2日間職業体験を行い、校内で報告会を行った。
- 近隣の幼保を誘って、秋の自然を使ったおもちゃづくりを行った。
- どまんなか商店へ「まち探検」に出掛けた。小学校5年生と「こ幼保」で読み聞かせ交流を行った。また、卒業生（現中学2年生）と職業体験で関わった。
- (来年度の取組について)「キャリア教育」に重点を置いていきたい。キャリア教育の実践により、地域の方と関わる場面を経験したり、自己を見つめたりする機会が増える。それにより、生きていく力（基礎的・汎用的能力）を育てていく。



特別支援部

- 授業では、子どもたちのつばやきを大切に温かな雰囲気に取り組むことができていた。
- 合理的配慮をテーマに協議をしていきたい。
- こ幼保と連携して、効果的だった支援方法を共有して進めていきたい。
- 小→こ幼保へ「小学校1年生で取り組んでいること」を教えてもらったので、入学前の活動が充実した。小学校1年生で行う活動を年長の3学期に行うことが効果的だった。同様に、中学校入学前にも同じような取組ができると、進学によるギャップが小さくなっていくと思った。



各部熱心な協議をありがとうございました。協議内容の一部を紹介しましたが、他にも多くの建設的な意見が出されました。各園校でも是非御覧いただき、今後の実践に生かしていきましょう。

また、今回出た意見をカリキュラム検討委員会で情報共有しながら令和6年度のカリキュラムにつなげていきます。学園職員が、自分事として「実態に合った取組」「実践してみたい取組」「子どもたちの成長を一番に考えた取組」になるよう“真化”の実現を図っていきましょう。

※ 袋井あやぐも学園のあゆみは、「ホームページ 学園情報」を御覧ください。

